

◆意外と多い、酒で身を滅ぼす偉人

酒好きのあまり、酒で命を落とした歴史上の人物はたくさん存在します。

戦国時代に限ってみると、大酒飲みで脳卒中を起こした上杉謙信や肝硬変が疑われる蒲生氏郷、山内一豊の妻、千代も晩年はアルコール依存症だったと伝えられます。その中でも、数々の酒の失敗で知られるのが、福島正則です。

正則は、豊臣秀吉の縁戚にあたる人で、最初は秀吉の小姓として武士の道に入ります。

1583年の賤ヶ岳の戦いでは、「賤ヶ岳の七本槍」のひとりとして名をあげました。柴田勝家を討ったこの戦いで、功績が認められた七人のうちに数えられるとは、さぞかし勇敢な戦を繰り広げたのでしょう。大酒飲みで、かつ粗野で感情的な正則の人となりは、後年にいたるまで良く知られており、ドラマでもたいていはそのような風貌の俳優が演じることが多いようです。

◆酒の肴にするには痛々しい失敗談

正則の酒の失敗を紹介しましょう。江戸から安芸(現在の広島県)に戻った際、いつものように船の上でしたたかに酒

を飲んだ正則は、いきなり激怒にかられます。どうやら、身分の低い者は木綿を着用するよう命じていたのに、それが伝わっていなかったことへの怒りでした。そのような些細なことでカッとするあたり、現代キリシタン高齡者が話題になっていますが、それを彷彿とさせるような振る舞いです。早速家臣を呼びつけた正則、なんと切腹を申し付けるのです。思わぬ大騒動になってしまった責任を取って、その家臣は泣く泣く切腹してしまいます。さて、問題はここから。

翌朝、正則は初めて一連の事実を知って、家臣の首級の前で号泣したと伝えられます。

つまり、前日の自分の言動をすっかり忘れてしまっていたのです。アルコールの血中濃度が相当高くなっていただけだと推察されますが、これは明らかに泥酔状態。昏睡の一手手前の、非常に危険極まる飲み方です。

この、家臣切腹事件より少し前。伏見城に正則を訪ねた黒田家の重臣は、大盃で酒を飲むことを強要され、結果、褒美として「日本号」という名槍を入手します。いつものように正則はすでに酩酊状態で、翌日になってはじめてそのことを知りますが、あとの祭り。この槍は代々の名君の

手を経て秀吉から譲り渡されたもので、いわば家宝、いや国宝といってもいい代物でした。正則痛恨のこの逸話は、現代の「黒田節」に語り継がれてもいるのです。

◆酒は「百薬の長」で「万病の元」

適量の酒は百薬の長といわれ、晩酌程度のお酒ならむしろ健康に良いのですが、飲みすぎは依存症などの精神疾患を引き起こし、生活習慣病のハイリスクとして位置づけられています。

昨年、アメリカの研究で「アルコールに弱い人は、アルツハイマーに罹りやすい」という論文が発表されました。これは、アルコールの成分そのものの影響というより、酒飲みの人は交流関係が広がりやすく、外出の機会も増え、料理とのバランスを考えると、うになる傾向があり、その結果のひとつと考えられます。ただし、ここでも適量の酒が前提になっているのはいうまでもありません。

正則は豪放磊落で、どこか憎めないところのある武将です。酒がたたって、最後には信州の川中島で肝臓病にて亡くなったといわれますが、身近にありそうな、こんな武将がひとりくらいいてもいいのでは、と思わせる人です。



う え だ み つ え
植田美津恵

医学博士・医学ジャーナリスト。愛知医科大学医学部客員教授、東京通信大学准教授。日本未病システム学会評議員、日本思春期学会理事。著書に『江戸健康学』『戦国武将の健康術』など。近著『忍者ダイエット』も好評発売中。

